

事務事業評価における総括

部 局 名	市立病院事務局	記入責任者	内藤 喜之
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>病院総務課における政策的事業である「市立病院の医療機器に関する事務」については、経営状況を鑑みた購入整備ができたものの、購入計画の策定には至らなかったためC評価としており、「市立病院の建設改良に関する事務」については、病院本館改修工事が入札不調に伴い遅延したものの、平成29年8月より着工した別棟建設工事について、令和元年5月末に竣工したことからB評価としています。</p> <p>医事課では、政策的事業である「市民健康講座の開催」、「各種医療相談」ともに目標値を超えた実績であったためS評価としており、おおむね順調に進捗しています。</p> <p>施策目標で示す経常収支比率及び医業収支比率、病床稼働率については、目標の達成はできませんでしたが、いずれの数値についても前年度を上回る結果となりました。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>C評価とした「市立病院の医療機器に関する事務」については、経営状況を鑑みた購入整備ができたものの、関係部署との調整に時間を要し、購入計画の策定に至りませんでした。B評価とした「市立病院の建設改良に関する事務」については、着工予定であった病院本館改修工事が入札不調に伴い遅延したものの、別棟建設工事を完了することができました。</p> <p>医業収支比率及び病床利用率の上昇については、令和元年10月より再稼働した病棟に係る入院患者数増加のほか、全体的な手術件数の増加が寄与したものと考えられます。</p> <p>経常収支比率の上昇については、リバイバル・ロードマップに基づく一般会計からの負担金及び補助金の増額が大きく影響したことによるものであることから、病院の経営状況が改善されたとは言い難い状況です。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>医療機器の購入に関しては、医療機器等整備委員会を随時開催し、選定方法のあり方の検討を行いながら計画的な購入に努めてまいります。また、購入計画の策定ができなかったことから、引き続き関係部署とともに、購入計画の策定を進めてまいります。</p> <p>地域における基幹病院として良質な医療を継続的に提供していくため、効率的な経営が求められており、茅ヶ崎市立病院リバイバル・ロードマップに掲げた、目標とする重要業績評価指標（KPI）の達成に向け、収支改善に積極的に取り組み、新型コロナウイルス感染症の動向に注視しながら経常収支比率及び医業収支比率を上げていきます。</p>			